

特集

進化を続けるアルテピア

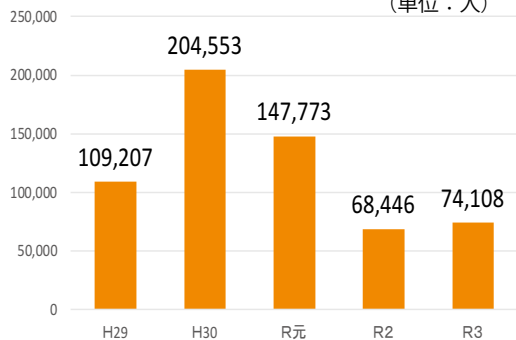
～総合文化ホール アルテピア開館5周年～

5周年を迎えたアルテピア。平成29年9月にオープンしてから文化芸術の拠点として、さまざまなイベントが行われてきました。今号では、これまでの歩みを振り返るとともに、これからのアルテピアの取り組みについてお伝えします。



入館者数（平成29年度～令和3年度）

（単位：人）



コロナ禍でも感染対策を図り、入館者約60万人を突破

新型コロナウイルス感染症により生活スタイルが一変。文化芸術活動も例外ではなく、大きな影響を受け、令和元年度末頃からアルテピアの入館者数は減少しました。

しかし、文化芸術の灯を絶やしてはなりません。「ウィズコロナ時代」となり、ホール側はもちろん、主催者各自が感染予防対策を取ることで、開催する催事の件数も少しずつ増え、入館者数が戻りつつあります。

来館者は開館から令和3年度末の累計で約60万人。安来市の人口の約15倍に上り、多くの利用者が市内外から訪れています。



3

広報 やすぎ

2022 11 月号

利用者が満足できる アルテピアを目指して



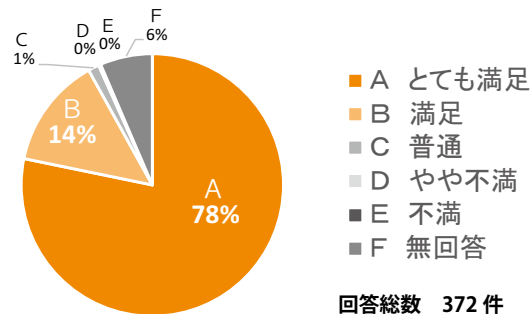
アルテピア館長
久保田孝さん

「文化ホールの運営は、文化事業と貸館事業の両輪が同じスピード感で進めていくことが大事です」と話すのは、開館当時からアルテピアで指揮を執る久保田孝館長。「イベントなどを行う文化事業の方はどうしても目立ってしまいがちですが、文化ホールの根幹にあるのは、貸館事業です」と、多くの市民の皆さんが満足して施設を使ってもらえるように、職員の人材育成に力を入れてきました。

以前は島根県民会館で数々のイベントを手掛け、貸館業務にも携わってきた久保田館長。アルテピア開館から3年間は、自らが現場に出て対応することが多かったといいます。開館から5年を迎え、徐々にスタッフのスキルも上がっ

令和3年度利用者アンケート（一部抜粋）

利用施設の満足度



てきました。

「茶道の世界には『もてなし』と『しつらえ』を基本とする考えがあります。私なりの解釈ですが、『もてなし』は、客人が気持ちよくそのひとときを過ごせるように接すること、そしてその客人とのひとときを自分自身も楽しむこと。『しつらえ』は怠りなくその準備をすることではないかと考えています」。

久保田館長はホールの運営に、その言葉を心構えとしてスタッフと共有しています。

その結果、令和3年度の利用施設の満足度のアンケート（左記図参照）では、満足との回答が9割以上。利用者からの評判も上々です。

アルテピア発 市民によるスティールパンバンド 安来スティールパンオーケストラ

「ハガネのまち」の文化芸術コンテンツとして、アルテピアがプロデュースする専属オーケストラ。平成30年度から結成に向けワークショップを重ね、令和2年11月にハガネツリーの点灯式でようやくお披露目公演を行いました。リーダーの吉木昌志さんは「スティールパンとはドラム缶で出来た音階打楽器。南国をイメージさせる透明感のある独特な音色が特徴です。現在7人で活動していますが、今後は子どもたちにも参加してもらい、一緒に活動してもらえると嬉しいです」と募集を呼びかけていました。



▶毎週木曜日に、アルテピアで練習しています。

今後アルテピアでは、プロアーティストをはじめ、プロを目指す若手演奏家やアマ



▲安来スティールパンオーケストラの皆さん。

チュアグループ等を対象にした「アルテピアアーティストバンク（登録アーティスト制度）」をスタートする予定です。募集対象・募集期間、登録の方法などの詳細は準備が整い次第、アルテピアホームページで告知します。

このアーティストバンクの設立により、地元アーティストの活動機会や市民の皆さんへの芸術鑑賞の機会を提供することができるようになります。

問い合わせ アルテピア ☎21-0101



地域資源を生かした 文化事業を展開

アルテピアでは、開館以降に実施した文化事業の中でも、参加者の満足度や評価が高いシリーズ企画を継続的に実施しています。リピーターの獲得と常に質の高い公演に触れられる施設イメージとして、「アルテピアらしさ」の定着と独自のブランド形成を図っています。

アルテピアの文化事業を担当する坂口寛事業部長に開館から今後の文化事業の展望について、話を聞きました。

毎年テーマを決め、連続性・発展性を考慮して文化事業を組み立てています。平成30年度は「出会う」をテーマに子

どもから高齢者まで、より多くの市民が文化芸術と触れ合い、すばらしさを実感できる事業を展開しました。

令和元年度は「つなげる」をテーマに市民や地域と連携。積極的にアーティストによるアウトリーチ事業（※）やワークショップなどを行い、文化芸術活動を行う人材の裾野を広げてきました。

※地域に出向いて普及活動を行うこと。



アルテピア事業部長
坂口 寛 さん

令和2年度のテーマ「ひろげる」では、文化芸術の芽が開くよう、地域と共に新しい文化芸術を創造しました。

指定管理期間の第2期目となる令和3年度からはテーマを「深化と進化」に。これは指定管理期間第1期の3年間で培ってきたノウハウをさらに深化させ、「お客さんや社会に貢献し続ける姿」や「既成概念にとらわれずに自らを進化させ、新しい事業や地域貢献に挑戦し続ける姿」を表しています。

これらを両立させることがアルテピアの目指すべき姿です。象徴する事業として、「ハガネミュージック」「創作講談」「安来寄席」の3つの文化事業を柱に据えています。

その柱の一つである「ハガ

ネミュージック」は、開館時から地域資源「鋼」をテーマに取り組んでいます。出演するアーティストは、現在までに11カ国に上ります。共通の特徴は「自国や故郷に誇りをもち、音楽を通してそれらを配信」していることです。伝統や歴史を絶やすことなく続けるものがあります。コンサートを通じて、郷土愛や伝統文化を再認識してもらええるきっかけになればと思います。



アルテピアは地域の文化とまちづくりの核となる施設。皆さんもさまざまな形でアルテピアを活用してみたいかがでしょうか。



●開館5周年記念による 主な実施イベント

- ①航空自衛隊による「子どもたちのための音楽鑑賞会」（5月）。
- ②広島交響楽団が一中弦楽部へ訪問し演奏指導（5月）。
- ③狂言野村親子三代による狂言公演（6月）。
- ④講談ワークショップの様子（9月）。
- ⑤なかうみ交響楽団「ベートーヴェン生誕250年記念交響曲連続演奏会」（9月）。

